

平成 26年度
授業改善推進プラン



立川市立立川第一中学校

【目指す教師像】

- 立川一中を愛する教師
- 一時間一時間の授業を大切にする教師
- 生徒一人一人を大切にする教師

【本校の課題】

- 学力・体力の向上
- 特別支援教育の充実
- 小中連携教育活動（学力向上に特化）の推進
→ ネットワーク型の学校経営の推進

【校内研究の充実】

- 東京都学力向上パートナーシップ事業調査研究校
→ 重点教科 国語+数学(算数) 英語(外国語活動)
- 思考力・判断力・表現力等を育む言語活動の充実
→ 全員参加型の研究授業・協議会を実施（年2回）
- 指導と評価の一体化
授業内の評価から生徒の実態を把握
→ 個に応じた指導など指導の改善を図る
- 国・都の学力に関する調査の年度変化の分析

【思考力・判断力・表現力等の育成】

- 課題に対して自分の考えをもち、他の考えを取り入れながらまとめ、発表する学習活動で育成
- 習得した知識や技能を活用して社会的事象の原因や背景、意味について考え、自分の言葉でまとめる学習活動で育成
- グループ学習や個人学習など学習の形態に変化をつけて、自分で考えて問題解決したり、他の人に教えたりする場面を設定した学習活動で育成
- 思考・表現の評価を、記録・要約・説明・発表といった言語活動で表現された活動成果で分析し、十分ではない点について、支援する学習活動で育成

【教育目標】

- 知性を磨いて個性を伸ばそう（知性）
- 敬愛の心を深め良い市民になろう（敬愛）
- 勤労を愛し責任を果たそう（勤労）

【目指す学校像】

- 安心して通わせられる学校
- 確かな学力と社会性を身に付けさせてくれる学校

【学力の重要な3つの要素の育成】

- 基礎的な知識・技能の習得
- 思考力・判断力・表現力の育成
- 学習意欲の向上や学習習慣の確立

【授業改善】

- 《生徒が「分かった」「できた」という実感がともない + 「意欲と自信」がもてる授業の展開》
- 学習のねらいや学習活動の手順を表示
→ 生徒が学習の見通しをもつことができる授業展開
- 小学校との接続を意識した授業展開
→ 中1ギャップ対応と小中連携教育活動の充実
- 『授業改善推進プラン』の作成による授業改善
→ 「作成⇒実施⇒検証⇒改善」のサイクルを確立
- 生徒による「授業評価（アンケート）」の実施
→ 「分かりやすい授業」と回答する生徒を80%以上
- OJTを通じた授業改善
→ OJT担当者等による授業観察と指導
- 個に応じた指導の充実
→ 習熟度別少人数授業の実施
(1・2年国語全学年数学・英語)
- 単元の中で「身に付ける力」を明らかにする
→ 生徒が思考・判断・表現する場面を、単元の中に意図的・計画的に盛り込む

【目指す生徒像】

- 確かな学力と豊かな個性をもった生徒
- 思いやりの心と規範意識をもった生徒

【評価・評定の活用の工夫】

- 「各教科の評価方法」の作成・配布
- 通知表【学習の記録】・「評価説明資料」の配布
- 生徒の自己評価を工夫
- 学力の定着度の把握と管理

【家庭における学習習慣の確立】

- 「家庭学習のしおり」を作成
- 宿題提示の工夫
- WAT観点・領域別学力診断テスト
フォローアップシートの家庭学習への活用

【学習機会の拡充】

- 定期考査前の学習教室「ステップアップ教室」
- 三者面談期間中の学習教室「ビルドアップ教室」
- 夏季休業前の補充授業「サマースクール」
- 定期的な学習「水曜学習教室」
- 定期考査前の学習教室「土曜学習教室」

【基礎・基本の習得】

- <国語> 身に付ける力を意識させながら授業に取り組ませることによる基礎・基本の習得
- <社会> 単元ごとの復習プリント、適切な課題の提供による基礎基本の習得
- <数学> 授業の初めにドリルを実施する反復練習による基礎・基本の習得
- <理科> 授業の振り返りテストを行い、それを評価することによる基礎・基本の習得
- <英語> 基礎的な語彙力の習得、文法の構造や使い方の習得
- <音楽> 個別的・継続的な指導による基礎・基本の習得
- <美術> 作業時間の確保や個別指導による習得
- <保体> 反復練習の時間を確保し、ねらいや授業の流れを理解させる学習活動により習得
- <技家> 基礎的な技能を、作業の時間を多くとることで習得

平成26年度 授業改善推進プラン

I 学校として「目指す学力」

基礎・基本の習得と思考力・判断力・表現力等の育成

II 学力調査結果

◆児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都）結果

平成26年7月3日(木)実施 対象:第2学年 数値は平均正答率

| | 本校 | 東京都 |
|----|------|------|
| 国語 | 59.4 | 60.1 |
| 社会 | 57.8 | 57.7 |
| 数学 | 57.0 | 53.8 |
| 理科 | 51.5 | 52.2 |
| 英語 | 54.3 | 54.7 |

各教科の平均正答率は概ね東京都平均と変わりませんが、問題の文章を読み、その中から必要な情報を取り出す力にほぼ全教科で課題があるといえます。

A 教科の内容

| | 国語 | | 社会 | | 数学 | | 理科 | | 英語 | |
|-----------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 本校 | 東京都 |
| 関心・意欲・態度 | 65.6 | 46.8 | 91.1 | 88.1 | 83.7 | 84.1 | 80.4 | 84.3 | 64.4 | 73.5 |
| 思考・判断・表現(話す・聞く) | 61.5 | 64.1 | 49.8 | 49.5 | 38.1 | 28.9 | 44.2 | 46.5 | 41.1 | 37.4 |
| 技能(書く) | 50.2 | 48.2 | 71.1 | 69.2 | 57.3 | 54.9 | 47.8 | 51.7 | 58.3 | 57.8 |
| 読む | 67.0 | 68.8 | | | | | | | | |
| 知識・理解(言語) | 61.7 | 66.0 | 57.1 | 57.4 | 71.1 | 67.9 | 55.9 | 54.3 | 69.3 | 69.0 |

B 読み解く力に関する内容

| | 国語 | | 社会 | | 数学 | | 理科 | | 英語 | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 本校 | 東京都 |
| 取り出す力 | 35.9 | 40.9 | 52.6 | 55.9 | 73.7 | 75.1 | 63.0 | 56.2 | 35.2 | 35.5 |
| 読み取る力 | 64.4 | 59.5 | 37.0 | 39.0 | 41.9 | 39.3 | 33.0 | 38.6 | 21.9 | 22.3 |
| 解決する力 | 64.4 | 61.5 | 45.6 | 45.2 | 15.6 | 11.7 | 37.0 | 38.0 | 15.9 | 19.1 |

※網掛けは、観点別平均正答率が都の平均正答率を下回った値

◆全国学力・学習状況調査（文部科学省）結果

平成26年4月22日(火)実施 対象:第3学年 数値は平均正答率

| | 学年 | 東京都 |
|------------|------|------|
| 国語A:主として知識 | 82.0 | 80.7 |
| 国語B:主として活用 | 55.7 | 53.2 |
| 数学A:主として知識 | 71.8 | 68.8 |
| 数学B:主として活用 | 63.8 | 61.8 |

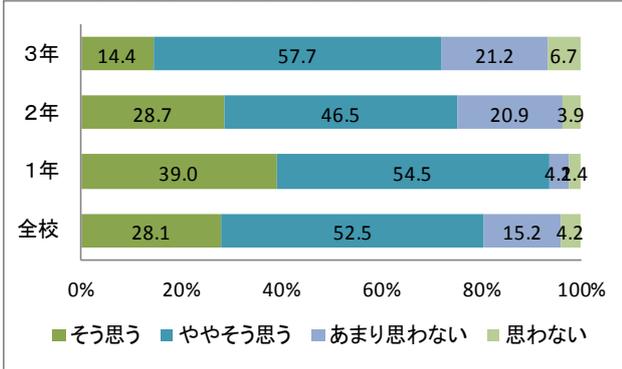
各テストの平均正答率は東京都を上回っていますが、国語A(主として知識にかかわる内容)と数学B(主として活用にかかわる内容)の項目のいくつかが東京都平均を下回っています。

| | 区分 | 国語A | | 国語B | | 区分 | 数学A | | 数学B | |
|------------|----------------------|------|------|------|------|-------------------|------|------|------|------|
| | | 本校 | 東京都 | 本校 | 東京都 | | 本校 | 東京都 | 本校 | 東京都 |
| 学習指導要領の領域等 | 話すこと・聞くこと | 73.4 | 73.5 | | | 数と式 | 80.6 | 78.4 | 66.4 | 58.1 |
| | 書くこと | 83.3 | 84.8 | 47.1 | 43.3 | 図形 | 71.1 | 68.5 | 61.3 | 61.7 |
| | 読むこと | 86.1 | 85.4 | 53.8 | 51.6 | 関数 | 62.6 | 59.4 | 68.5 | 65.8 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 82.2 | 79.6 | 63.1 | 59.2 | 資料の活用 | 65.8 | 59.7 | 54.5 | 57.3 |
| 評価の観点 | 国語への関心・意欲・態度 | | | 47.1 | 43.3 | 数学への関心・意欲・態度 | | | | |
| | 話す・聞く能力 | 73.4 | 73.5 | | | 数学的な見方や考え方 | | | 62.0 | 59.9 |
| | 書く能力 | 83.3 | 84.8 | 47.1 | 43.3 | 数学的な技能 | 74.9 | 69.9 | | |
| | 読む能力 | 86.1 | 85.4 | 53.8 | 51.6 | | | | | |
| 問題形式 | 言語についての知識・理解・技能 | 82.2 | 79.6 | 63.1 | 59.2 | 数量や図形などについての知識・理解 | 69.6 | 68.0 | 88.3 | 88.3 |
| | 選択式 | 85.7 | 84.6 | 59.9 | 58.1 | 選択式 | 68.4 | 65.9 | 83.5 | 84.6 |
| | 短答式 | 75.8 | 74.3 | | | 短答式 | 75.2 | 71.7 | 70.1 | 64.9 |
| | 記述式 | | | 47.1 | 43.3 | 記述式 | | | 47.6 | 47.2 |

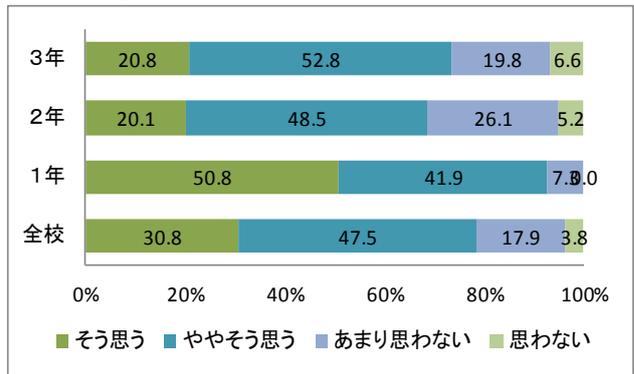
※網掛けは、観点別平均正答率が都の平均正答率を下回った値

III 本校授業評価結果

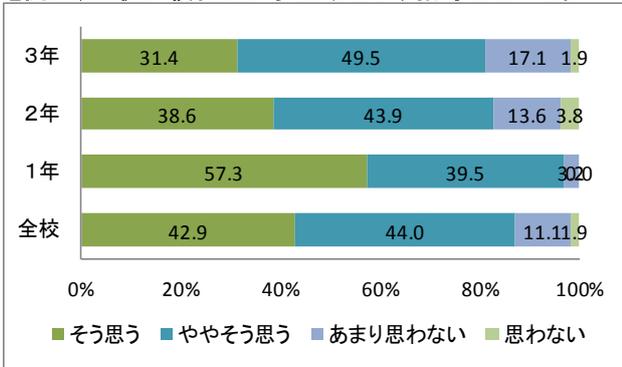
①先生たちは、研究授業などを通して、分かりやすい授業や思考力を高める授業に取り組んでいる。



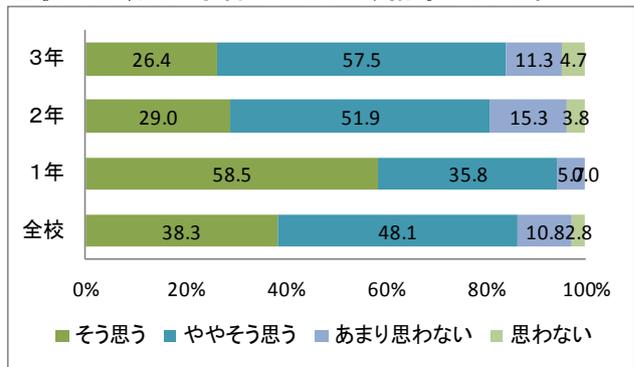
②先生たちは、計画的に家庭学習ができるよう指導してくれたり、授業で活かされるような課題を出してくれる。



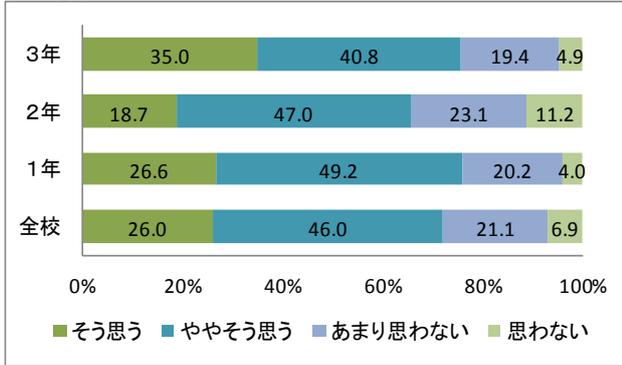
③先生たちは、生徒それぞれの学力に応じた学習教室を開き、生徒に積極的に参加するよう指導している。



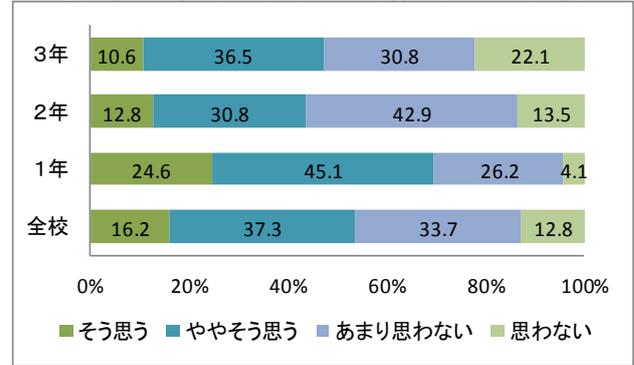
④先生たちは、評価評定の仕組みを説明し、生徒が意欲的に学習ができるよう指導している。



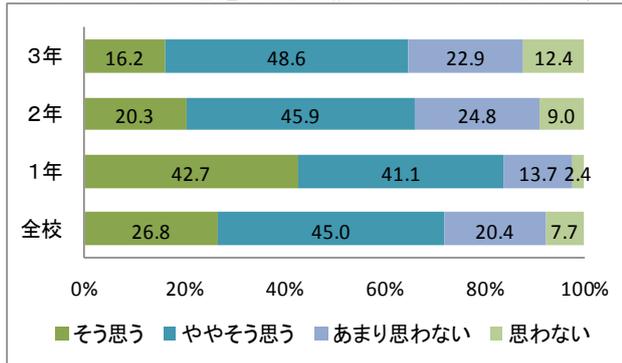
⑤忘れ物やおしゃべりをせず、授業に集中して取り組んでいる。



⑥授業では、自分の得意な部分を伸ばしたり、苦手なところを少なくするように、先生が個別に教えてくれる。



⑦先生たちは、授業でできたことをほめてくれたり、できなかったことの原因をしっかりと教えてくれたりしている。



学習に関する学校全体の取組として、①分かりやすい授業、②家庭学習への指導、③補充的な学習の機会、④評価評定の意欲への活用については、概ね80%の生徒が肯定的に回答しています。

⑤授業への集中度、⑦授業内での支援では肯定的な回答が70%と下がり、⑥個別の指導では肯定的な回答は60%を切っています。

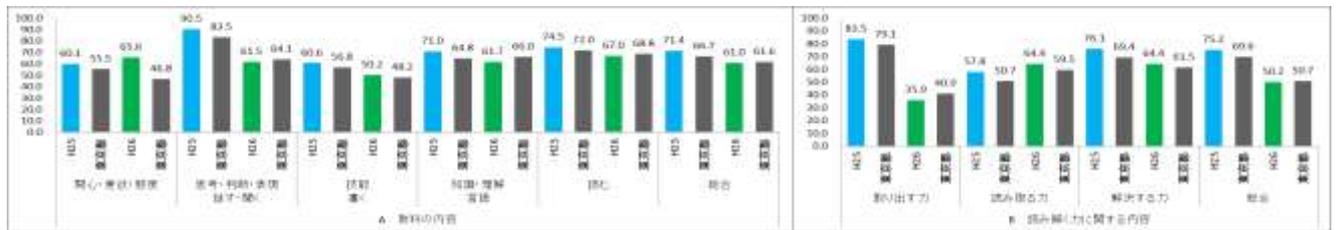
↓

◆生徒の授業への集中力を高め、個別指導を通してやる気を引き出す工夫が必要であると考えられます。

IV 各教科

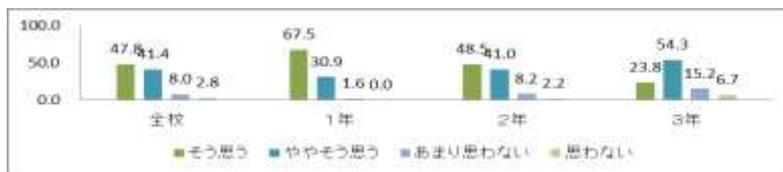
平成26年度 国語科 授業改善推進プラン

◆平成25年度・26年度東京都学力向上を図るための調査結果



◆生徒アンケート（7月実施）

国語の授業では、分かりやすく教えてくれたり、興味関心を引き出す工夫をしたりしてくれる。



◆現状・観点別分析

- 国語への学習意欲は比較的高く、授業や課題に積極的に取り組み、板書の書き取りも十分である。一方で、自分で考えたり、書いたりということに苦手意識のある生徒も見られる。(全学年)
- 7月の生徒による授業評価
 - ・90%以上の生徒が「授業のはじめに目あてや見通し」が示され「授業の目的や課題が分かりやすい」としている。また、「授業の説明や指導が分かりやすい」と評価している生徒も90%以上いる。(全学年)
 - ・「自分の考えを書いたり、発表したりする学習活動で自分の考えを深める」ことが十分ではないとした生徒が24%いる。(1学年)
 - ・「自分の考えを書いたり、発表したりする学習活動で自分の考えを深める」ことが十分ではないとした生徒が17%いるが、昨年度は37%だったことを考えると、改善されている。(2学年)
 - ・「自分の考えを書いたり、発表したりする学習活動で自分の考えを深める」ことが十分ではないとした生徒が22%いる。(3学年)
- 話す・聞く能力については、立場や考えの違いを踏まえて話す力や相手の立場を尊重して話し合う力が十分とは言えない。(全学年)
- 書く能力については、自分の考えをまとめて書くことはできるが、目的や意図に応じた文章構成を工夫して的確に書くことのできない生徒も多い。(全学年)
- 読む能力については、内容や要旨はとらえることはできるが、文章の中から必要な情報を取り出したり、情報を集めて効果的に活用したりする力が身に付いていない。(全学年)
- 漢字を読むことができても書くことができなかつたり、覚えている漢字を文脈の中で適切に用いることができなかつたりする生徒も多い。また、文法事項については理解に多少の差がある。(全学年)

◆課題（全学年）

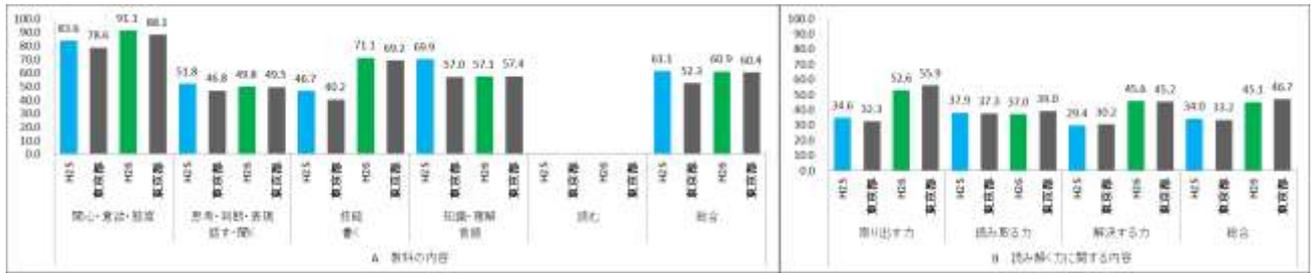
- 授業に取り組む姿勢をより向上させ、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせることが課題である。
- 全ての教科における言語活動の充実のために、言語能力を向上させることが課題である。
- 思考力・判断力・表現力を育成し、人間関係を円滑にするコミュニケーションの力を身に付けさせることが課題である。

◆具体的な改善策（全学年）

- 授業の中で、上記の4観点について身に付ける力を板書により示し、意識させながら授業に取り組みせことで、基礎・基本の定着を図ると同時に、発展的な問題にも取り組ませる。
- 身近な話題や生徒が表現しやすい、または表現すべき必要性を感じるテーマについて、自分の考えをまとめ、表現する時間を確保することで、言語に関する能力を向上させる。
- 單元ごとの小テストや課題プリントを用い、生徒の学習意欲を高める。また、その取組に対して、適切な評価を与える。
- 少人数授業での言語事項に関する指導の中で反復学習に取り組ませ、知識の定着を図る。

平成26年度 社会科 授業改善推進プラン

◆平成25年度・26年度東京都学力向上を図るための調査結果



◆生徒アンケート（7月実施）

社会の授業では、分かりやすく教えてくれたり、興味関心を引き出す工夫をしたりしてくれる。



◆現状・観点別分析

- 「授業評価」において、1学年は92%、2学年は79%、3学年は89%の生徒が意欲や関心が高まり知識や技能が身に付いていると答えている。上記のアンケートの結果も、ほぼ同じ割合になっており、授業の工夫と生徒の意欲は呼応している。2学年の肯定的な意見が80%に及ばないことが気になるが、どの学年も、数人ではあるが授業への意欲が低く集中力に欠ける生徒が見受けられるのが現状である。（全学年・2学年）
- 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では教科の内容については、総合的には東京都の60.4%に対して60.9%という同程度の結果となったが、読み説く力については東京都の46.7%を下回る45.1%という結果であった。中でも資料から取り出す力は35.9%と低く、資料を丁寧に読み取り、必要な情報を取り出す力に課題がある生徒が多い。（2学年）
- 「領域別学力診断テスト」では、「社会的な思考・判断」に課題がある生徒が20%であった。社会的な事象に対して、多面的・多角的に考察して説明するという力はまだまだ乏しい。（3学年）
- 定期考査や課題の提出状況からみると、テスト勉強や課題に取り組んで基礎的な力を定着させている生徒と、学習習慣が身に付いていない生徒との差が大きい。（全学年）

◆課題（全学年）

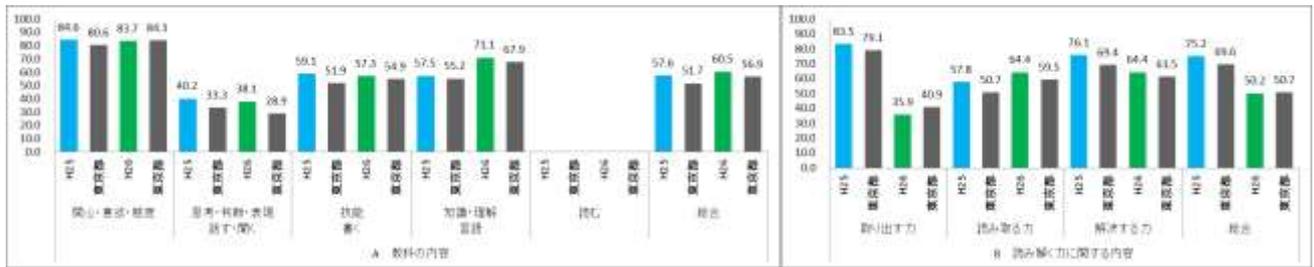
- 授業への興味・関心の向上を図り、知識の定着を図ることに課題がある。
- 授業への集中、授業道具の準備、課題の提出など授業規律の徹底を図ることに課題がある。
- 思考力・判断力・表現力の育成を図ることに課題がある。
- 地図や資料などから必要な情報を正確に取り出す力を養う事に課題がある。

◆具体的な改善策（全学年）

- 授業のめあてを分かりやすく明示し、新聞や写真などを活用して現代社会の出来事を適宜取り上げる。
- 個々の授業参加の状況を常に把握し、個に応じた適切な指示を配慮する。
- 単元ごとの予習・復習プリント、適切な課題の提供を行う。
- 「なぜ、そうなるのだろう」と考える場を授業の中で計画的に取り入れる。
- 地図や資料の読み取り、発表する時間を確保する。

平成26年度 数学科 授業改善推進プラン

◆平成25年度・26年度東京都学力向上を図るための調査結果



◆生徒アンケート（7月実施）

数学の授業では、分かりやすく教えてくれたり、興味関心を引き出す工夫をしたりしてくれる。



◆現状・観点別分析

- 〈全学年〉85%前後の生徒が「先生は学習のめあてや見通しを示している」、「先生は授業の目的や課題について分かりやすく説明している」と感じている。
- 〈1学年〉定期考査、小テストの結果から、技能の観点では達成度60%未満の基礎コースの生徒が50%、見方や考え方の観点では達成度60%未満の基礎コースの生徒が69%であった。
- 〈2学年〉東京都学力調査の結果から、見方や考え方の観点は38%と低い結果になった。また、生徒アンケートの「分かりやすく教えてくれたり、興味関心を引き出す工夫をしたりくれる」と感じてない生徒が20%以上いる。
- 〈3学年〉全国学力調査の結果から、見方や考え方の記述式の証明問題では、正答率が50%以下と低い結果になった。また、生徒アンケートの「分かりやすく教えてくれたり、興味関心を引き出す工夫をしたりくれる」と感じてない生徒が20%以上いる。

◆課題 〈全学年〉

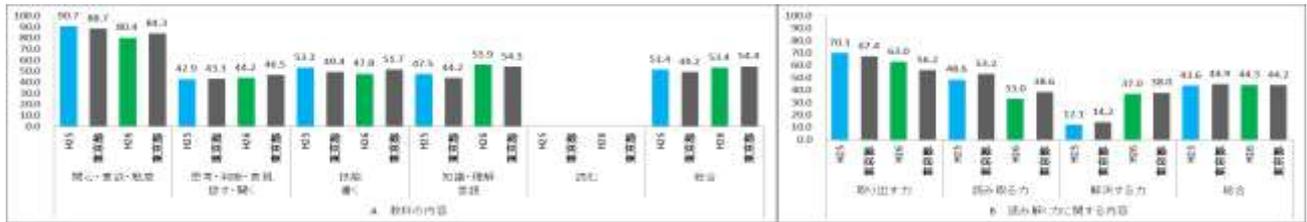
- 基礎コースの生徒を中心に、計算等の数学的な技能を身に付けさせる事に課題がある。
- 数学的な見方や考え方や、図表や文章から必要な情報を読み取り解決する力を身に付けさせることに課題がある。
- 文章題や図形の証明などの応用問題が解けるよう、段階的な思考力・判断力を身に付けさせることに課題がある。

◆具体的な改善策 〈全学年〉

- 計算ドリルを充実させ、反復練習によって基礎・基本の習得を図る。
- グループ学習や個人学習など学習の形態に変化をつけて、自分で考えて問題解決したり、他の人に教えたりする場面を設定する。また、図形ではその図形で考えられる用語や公式を答えさせる活動を充実させることで、思考していく過程でヒントになっていくことを理解させる。

平成26年度 理科 授業改善推進プラン

◆平成25年度・26年度東京都学力向上を図るための調査結果



◆生徒アンケート（7月実施）

理科の授業では、分かりやすく教えてくれたり、興味関心を引き出す工夫をしたりしてくれる。



◆現状・観点別分析

□4月の領域別学力診断テスト

「学習意欲」が十分な生徒が、1学年－92%、3学年－92%だった。

「科学的な思考・表現」が十分な生徒が、1年－80%、3年－90%だった。

「観察・実験の技能」が十分な生徒が、1年－80%、3年－90%だった。

「自然事象についての知識・理解」が十分な生徒が、1年－83%、3年－90%だった。

□7月の生徒による授業評価

1年－99%、2年－99%、3年－95%の生徒が、「学習のめあてや見通しを示し、授業の目的や課題についての説明が分かりやすい」と答えている。

1年－97%、2年－97%、3年－90%の生徒が「授業の説明や指導はていねいで分かりやすい」と答えている。

1年－86%、2年－85%、3年－91%の生徒が、「授業で意欲や関心が高まり、知識や技能が身に付いている。」と答えている。

◆課題

□家庭学習を通じて基礎的・基本的な知識を身に付けることにより、授業全体が活性化し、それによって高い学力を身に付くことが課題である。〈全学年〉

□実験方法を予習したり、実験を実際に行うときに注意点や道具の使い方を意識したりすることで、実験・観察の技能を身に付けることが課題である。〈全学年〉

□基礎的・基本的な知識や技能を活用し、知識基盤社会と言われる現代の社会を生き抜くために十分な思考力・表現力を身に付けることが課題である。〈全学年〉

◆具体的な改善策

□毎回の授業に課題を設定し、評価する。また、授業における課題（身に付ける力）を生徒に事前に知らせることで、課題についての予習を促す。予習してきたことが授業に生かされることで家庭学習の習慣へとつなげる。〈全学年〉

□実験方法について予習させ、実験を実際に行うときに、注意点や道具の使い方を意識することで、実験・観察の技能を身に付けさせる。さらに、観察や実験結果などから得られる情報を整理してまとめさせ、自分の考えを表現する力を身に付けさせる。〈全学年〉

□授業の中で、自ら考え、それを表現する機会を増やす。また表現した自分の考えを発表する機会を増やし、そのような言語活動を通して科学的な思考力・表現力を向上させる。〈全学年〉

平成26年度 音楽科 授業改善推進プラン

◆生徒アンケート（7月実施）

音楽の授業では、分かりやすく教えてくれたり、興味関心を引き出す工夫をしたりしてくれる。



◆現状・観点別分析

《7月に実施した生徒による授業評価を受けて》

- 「自分の考えを書いたり、発表したりする学習活動をして、自分の考えを深めることができている」生徒が73%で、他学年に比べ肯定的な回答が少ない。〈1学年〉

《1学期に実施した実技試験の結果を受けて》

- 発声や姿勢など歌唱における基本的な技能が身に付いていない生徒が20%いた。〈1学年〉
- 男子生徒の5%は音程が不正確なまま覚えており、女子生徒の10%は歌唱表現に対しての苦手意識から大きな声で歌えていなかった。〈2, 3学年〉

《1学期に実施した期末考査の結果を受けて》

- 楽曲の背景や仕組みなどの基本的な知識を生かして楽曲を説明することが十分ではない生徒が15%いることが分かった。〈1学年〉
- 楽曲の背景や仕組みなどの基本的な知識が身に付いていない傾向が見られた。〈2学年〉
- 音楽の諸要素を感受し、自分なりの言葉で楽曲について説明する能力が身に付いていない傾向が見られた。〈3学年〉

◆課題 〈全学年〉

- 歌唱領域において、基本的な技能が身に付いていない生徒がおり、特に正しい音程で歌うことに課題がある。また、歌うことに消極的な生徒がいることも課題としてあげられる。
- 楽譜を読み取る力や音楽の諸要素を意識する能力を身に付けさせることに課題がある。
- 楽曲の仕組みを理解し、自分なりの言葉で説明し表現する能力を身に付けさせることに課題がある。

◆具体的な改善策 〈全学年〉

- 歌唱領域において基本的な技能が身に付いていない生徒に対して、個別のかつ継続的な指導を行う。
- 歌うことに対して消極的なイメージを持つ生徒のために、グループで教え合う機会をつくり、仲間と声を合わせることの楽しさを感じさせるようにする。
- 音楽の諸要素を全体で復習し、楽曲に触れる際には常に意識することができるよう働きかけを行う。
- 1年生では楽曲の仕組みや音楽の良さを言葉で説明できるよう、2年生では批評文を書けるよう、3年生では根拠をもって楽曲紹介ができるよう、音楽と、それを構成する様々な要素を関連付けながら指導にあたる。
- 思考力・判断力・表現力の育成のために、グループワークなど、生徒自らが考え、主体的に活動できる機会を増やす。
- 鑑賞曲を参考にして自らの表現力を高められるよう、鑑賞領域と表現領域を関連付けて教える。

平成26年度 美術科 授業改善推進プラン

◆生徒アンケート（7月実施）

美術の授業では、分かりやすく教えてくれたり、興味関心を引き出す工夫をしたりしてくれる。



◆現状・観点別分析〈全学年〉

- 3学年ともに授業に対する興味関心は高く、作品制作に意欲的に臨む生徒が多く見られるが、集中力が十分でない生徒も一部見られる。〈全学年〉
- 7月の生徒による授業評価では、授業の分かりやすさや授業の工夫について、1年生から順に 91%、77%、88%と肯定的に回答しており、1,3年生に比べ2年生の肯定的な回答が少ない。〈2学年〉
- 空間把握が難しい生徒が多く見られる。〈1学年〉
- 自分自身の発想ができる生徒が多く見られるが、道具を上手に使うことが難しい生徒も一部見られる。〈2学年〉
- 思いついたアイデアをより広げたり深めたりすることが不得意な生徒が多くみられる。〈3学年〉
- 基本的な技能はあるものの、丁寧さに欠ける生徒が一部見られる。〈1学年〉
- 発想構想に時間がかかり作業が滞る生徒とそうでない生徒との差が大きい。〈2・3学年〉
- 互いの作品に対して関心を抱き、短時間ではあるが鑑賞を行うことができている。〈全学年〉

◆課題

- 学習への意欲を持続させることに課題がある。〈全学年〉
- 特に2年生において、授業に取り組む上での興味関心を引き出す工夫に課題がある。〈2学年〉
- 1年生では空間把握の技能、2年生では道具の使い方、3年生ではアイデアを膨らませる工夫といった基礎的・基本的な知識や技能の定着と活用に課題がある。〈全学年〉
- よりよい作品作りをしようとする姿勢や、作品作りの計画性が不十分である。〈全学年〉
- 他の作品の鑑賞により、文化・芸術を愛好する精神が生まれ、豊かな生活を創造しようとし、他者との違いやお互いの作品のよさを理解しようとする姿勢を身に付けることができるが、その時間が作品作りに追われ十分に持てていない。〈全学年〉

◆具体的な改善策〈全学年〉

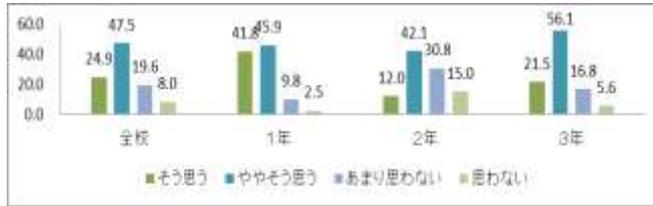
- 一人一人の制作進度に合わせた課題設定を考慮しつつ、個に応じた作業時間の確保や個別指導により基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指す。〈全学年〉
- 道具の使い方を実演して近くで見せ、使い方を理解し制作を行えるように指導をする。様々な作品をつくる・見ることによって空間把握をできるようにする。〈2学年〉
- 生徒が、発想がありながら表現に結びつかず、途中であきらめてしまうことのないようにし、制作過程で、互いにコミュニケーションをとり意欲を継続させる。〈全学年〉
- 完成までの制作時間・作業工程を示し、計画的に制作し丁寧に作品を完成できるようにする。〈全学年〉
- 学期ごと、作品完成ごとに生徒作品の鑑賞を行い、鑑賞の時間を十分にとることで自分の作品・他の作品の良さを発見し、鑑賞の能力を深めていく。〈全学年〉

平成26年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

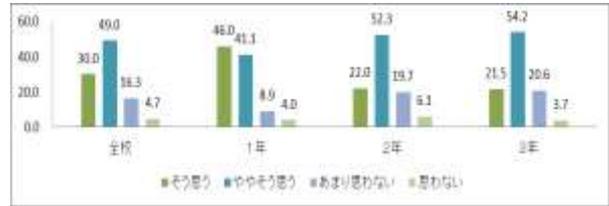
◆生徒アンケート（7月実施）

技術家庭の授業では、分かりやすく教えてくれたり、興味関心を引き出す工夫をしたりしてくれる。

<技術>



<家庭>



◆現状・観点別分析

- 7月の生徒による授業評価では、「分かりやすく教えてくれたり、興味関心を引き出す工夫をしたりしてくれる。」という問いに対し、そう思うと回答した生徒は、1年では技術科で87.7%、家庭科で87.1%、2年では技術科で54.1%、家庭科で74.3%、3年では技術科で77.6%、家庭科で75.7%であった。
- 毎回の授業についての振り返りレポートやワークなど、ほとんどの生徒がきちんと提出することができており、また、積極的な発言などもみられ、学習意欲は高い。<全学年>
- 技能については、小学校での図工での取り組みから、道具を扱うことができるが、正しい使い方ができていない生徒が多い。<1学年>
- 基礎的な知識については、習得できているが、知識を組み合わせることで製作を行ったり、整理して説明したりすることが十分でない生徒が多い。<全学年>

◆課題

【技術分野】

- 基礎技術、基礎知識は習得できているが、それらを組み合わせ、応用する力が不足している。<全学年>
- 問題点を把握し、その解消の為に必要な技術や製品を工夫する力が不足している。<全学年>

【家庭分野】

- 学習活動に積極的に取り組むことができているが、学んだ知識を生活に活かし、技術の習得につなげることが十分ではない。<全学年>
- 作業の手順をしっかりと理解し、計画を立て効率的に作業を行うことが十分ではない。<全学年>

◆具体的な改善策

【技術分野】

- 多くの製品や技術は基礎技術の組み合わせであることに気づくことのできるよう教材提示を行う。<全学年>
- 作品の製作で生徒同士で作品を評価し、優れた部分や、改善案など話し合う機会を増やす。<全学年>

【家庭分野】

- 実習手順や重要な作業については、生徒自身で考えメモを取り記録することで、作業手順についての理解を深め、自ら進んで実習に取り組む機会を増やす。<全学年>
- 調理実習では、実習作業を効率よく進めるために、グループで実習の手順を工夫して考え、発表する機会をつくる。<全学年>

平成26年度 保健体育科 授業改善推進プラン

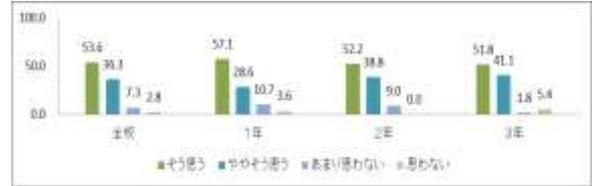
◆生徒アンケート（7月実施）

保健体育の授業では、分かりやすく教えてくれたり、興味関心を引き出す工夫をしたりしてくれる。

<男子>



<女子>



◆現状・観点別分析〈全学年〉

□学習の意欲は、学期評価における関心・意欲・態度の観点別評価は、すべての学年で十分満足できるが約6割、概ね満足できると合わせると約8割の生徒が満足できる状態であり、とても意欲的である。

□生徒による授業評価において「授業の説明や指導が丁寧で分かりやすい」と答えた生徒が3学年すべての平均で94%いる。しかし、「授業で自分の考えを深めること」が十分でないと答えた生徒が18%いる。

□評価評定において、「思考しながら運動を改善できる力を身に付けている」の平均到達度は60%程度である。

□定期考査の「思考・判断」を問う問題の平均到達度は全学年ともに50%程度で、文章で表現する力やや弱い。

□運動の技能（東京都統一体力テスト）

- ・男子 筋持久力や敏捷性の値が全国平均値と比べ、高水準である。握る筋力やスピードは、全国平均値と比べて低い。体力合計点では、東京都平均より高く全国平均よりやや低めである。
- ・女子 筋持久力や柔軟性の値が全国平均値と比べ、比較的高い。全身持久力は、全国平均値と比べて低い。体力合計点では、東京都平均より高く全国平均よりやや低めである。

□観点別評価で、Aと判断できる生徒がどの学年も約30%であり、平均到達度では約60%である。

◆課題

□授業の中で自分で考え、行動していくことが課題である。〈1・2学年〉

□文章で表現したり仲間に伝えるための、思考力・表現力を高めることが課題である。〈1・2学年〉

□運動の技能は、体力の身に付き方に差があり、苦手種目の克服が課題である。〈全学年〉

□知識・理解の評価における到達度より、知識の定着が促し切れていないのが課題である。〈全学年〉

◆具体的な改善策〈全学年〉

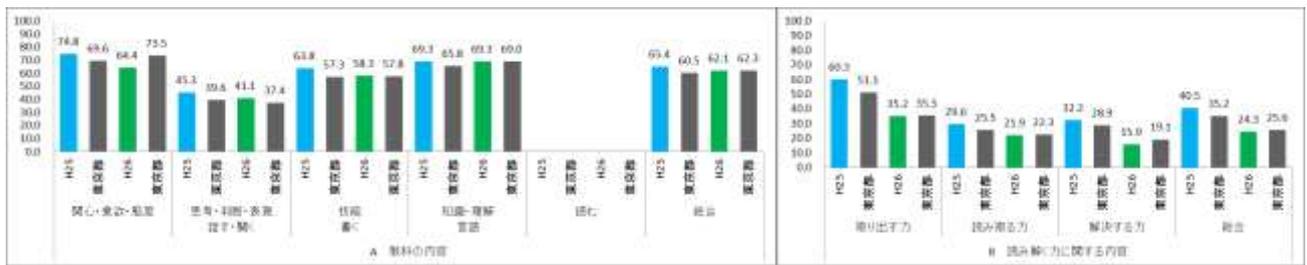
□授業の中で、考えて行動させる時間を確保し、その際に、仲間と伝え合う活動や学習ノートに考えをまとめる活動を習慣的に行い、思考力・判断力・表現力を継続的に高めていく。

□体力の身に付き方の差を踏まえた単元計画や授業の重点事項を生徒に提示して、取り組ませることで、体力をバランス良く身に付けさせていく。

□知識の定着を図るため、常に、知識の積み重ねの上に授業があるよう、確認を随時行う授業を展開し、用語や内容の理解を深めていく。

平成26年度 英語科 授業改善推進プラン

◆平成25年度・26年度東京都学力向上を図るための調査結果



◆生徒アンケート（7月実施）

英語の授業では、分かりやすく教えてくれたり、興味関心を引き出す工夫をしたりしてくれる。



◆現状・観点別分析

- ・[1学年] 生徒アンケートの結果では、95%以上の生徒が「授業は分かりやすく、工夫をしている」と答えているが、1学期の定期テストから見ると、まとまった文章を読み取る能力が十分ではない。
- ・[2学年] 学力向上を図るための調査では、関心・意欲・態度が64%と低い。一方、話す・聞く、書く、知識・理解の3観点については、東京都の平均を若干ではあるが、上回ることができている。読み解く力に関する内容については、特に、解決する力が15.9%に留まっている。
- ・[3学年] 生徒アンケートの結果では、「授業は分かりやすく、工夫をしている」と答えている生徒が80%に届いていない。学力テストの結果を、観点別に見ると、理解の能力や知識・理解について、全国平均を上回ることができている。
- ・[全学年] どの学年も文法事項の習得や語彙の定着について、生徒間に学力差が生じている。

◆課題 [全学年]

- ・英語学習に対する関心・意欲・態度を向上させることが課題である。
- ・基礎的な語彙力を身に付けさせることが課題である。
- ・文法の構造を理解させ、それを使えるようにする力を身に付けさせることが課題である。
- ・英文を書いたり、話したりして自己表現する力を伸ばすことが課題である。
- ・ある程度の長さの文章を読み、内容を読み取る力を伸ばすことが課題である。

◆具体的な改善策 [全学年]

- ・ビンゴやゲーム、英語の歌、外国人講師と会話などを多用し、外国語に対する興味・関心を引き出す。
- ・新出単語は何度も読み書きし、覚えさせる。ポキャブラリーコンテストなどを定期的に行い、語彙力をつけさせる。
- ・ドリルやパターンプラクティスなどを取り入れ、文法事項を何度も復習させる場面を設定する。
- ・ピクチャー・ディスクリイビングができるまでしっかり音読させ、教科書の内容理解を深めさせる。
- ・表現力を付けさせるために、まず基本文を繰り返し暗唱した後で、小テストを行い、基礎・基本の定着を図る。その後、並び換えや自由英作文など、発展的な活動へとつなげていく。
- ・読解力を付けさせるために、副教材などを使い、教科書以外の英文に触れる機会を多く作る。